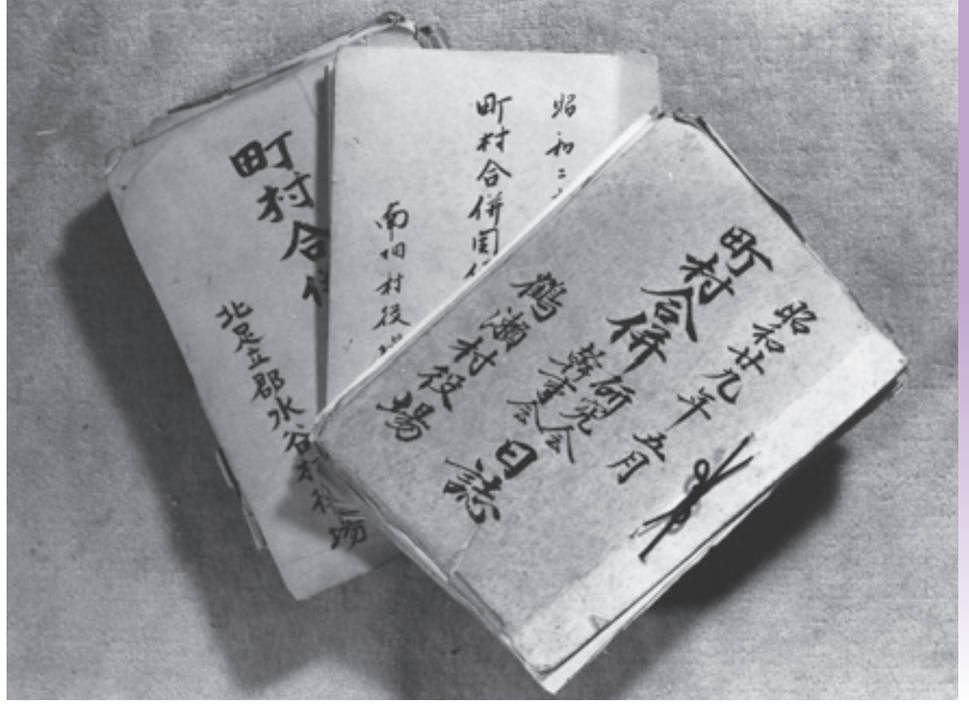
富士見村誕生から60年

問合せ／難波田城資料館 ☎049－253－4664



旧3村の合併関係文書

昭和31年（1956）9月30日、鶴瀬、水谷、南畑の3つの村が合併して「富士見村」が誕生しました。村・町・市制を数えると、今年で60年が経ちました。

3つの村のなりたち

江戸時代から明治時代の前半まで、現在の市の範囲には8つの村がありました。明治時代の小学校義務教育化など、村の役割が増える中で、政府は1村300戸以上になるよう合併を推進し、明治22年に鶴馬村と勝瀬村が合併して「鶴瀬村」、水子村と針ヶ谷村が合併して「水谷村」、東大久保村・上南畑村・下南畑村・南畑新田（※）が合併して「南畑村」が誕生しました。

現在の富士見市域の旧８村

※当時、末に「新田」と付く地名は村として集計されていました。

戦中・戦後の合併

合併は第二次世界大戦中および終戦後も進められました。特に戦後は地方自治の確立や学制改革による新制中学校の発足などにより、町村は戦前より多くの役割を担うことになったため、昭和28年に3年間の期限で町村合併促進法が作られました。町村の人口は中学校の適正規模とされる8千人以上が標準とされ、県が合併の試案を作りました。

合併協議

県が作った試案を踏まえたグループ（鶴瀬村、福岡村、大井村、三芳村、南畑村、柳瀬村）は昭和29年から協議が開始するも、柳瀬村が所沢市と合併したうえ、残った5村でも合意に至らず、昭和30年の春に協議が中断しました。

鶴瀬村は南畑村との合併が合意直前になりましたが、村民大会で3村以上で合併という条件が付きました。南畑村は、鶴瀬村との合併を基本として、水谷村や宗岡村にも打診をしました。水谷村は、戦中に合併してすぐ分離した志木町と再合併を目指す「北進派」と、鶴瀬村と合併を目指す「南進派」に分かれ、意見を統一できず、協議への参加には消極的でした。

町村合併促進法の期限が迫った昭和31年に5村での協議を再開しましたが、福岡村は大井村のみと合併を望み、大井村と三芳村は村内の意見を統一できなかったため、グループの大同団結は成立せず、鶴瀬・南畑・水谷の3村の合併が有望となりました。

昭和29年の市町村の区域（太線は県試案）

新村建設計画書

水谷村住民投票用紙

水谷村では、意見の統一が進まず、住民投票で結論を出すことになりました。97％という高い投票率での開票の結果、鶴瀬・南畑との合併が6割の支持を得ました。

富士見村の誕生

その後、3村は合併することに合意し、新村名は「東上」「入間野」などの候補が挙がるなか、村のどこからも富士山のすばらしい眺めが見られることから「富士見」となりました。

そして、町村合併促進法の期限最終日である昭和31年9月30日に、ついに富士見村が誕生しました。当時の人口は約1万1千人。役場は旧鶴瀬村役場（現鶴瀬公民館敷地）に置かれました。

昭和34年度に新村建設計画書を作成しました。基礎調査から実施計画まで全268ページにおよぶ資料です。村の将来を近郊農村として構想していること、村営循環バスを検討していることなどが含まれています。観光農業を目指して南畑で梨の栽培が始まったのもこの時期です。また、富士見村誕生の前後はほうきの製造がとても盛んで、特に鶴瀬村は「鶴瀬村のほうき草は全国で一番」と言われるほどでした。

また、高度成長期に入った東京圏で働く人々の住まいとして、昭和32年に鶴瀬（第一）団地、昭和37年に鶴瀬第二団地が入居開始し、東武鉄道による「富士見団地」など民間宅地も開発され始めました。

富士見町役場（昭和39年ごろ）

村から町へ　そして市へ

鶴瀬駅付近の発展により、人口が増加し、昭和39年に町制を施行しました。その後、人口増加はさらに加速し、町制施行のわずか8年後の昭和47年に市制を施行し、翌年の昭和48年、市域の真ん中である現在地に市役所新庁舎を建設しました。

これからも続く富士見の歴史

農村として歩み始めた富士見。先人たちが築いてきた魅力あるまちづくりにより、人口減少の時代を迎えた現在も人口は増え続け、11万人を突破しました。富士見村誕生当時と比べると約10倍です。歩んできた歴史を大切にしながら、今日も新しい富士見の歴史が作られていきます。

富士見村ができたとき

あっという間の60年

浦野幸吉さん（79歳）
羽沢３丁目在住
（旧鶴瀬村出身）

富士見村ができたとき、私は19歳。鶴瀬駅前でほうき職人をしていました。当時、富士見村周辺はほうきの製造で有名で、夏になると村内の畑はほうき草でいっぱいになりました。また、今のように高い建物がなかったので、本当にどこからでも富士山が良く見えたものです。

合併した旧3村はどの村も落ち着いた平和な村で、多少の意見の違いはあったかもしれませんが、元々村同士での付合いもあったので、合併しても大きな変化はありませんでした。

町になる前後から人口が急増し、街並みや生活に変化が出てきたように思います。

振り返るとあっという間に60年が経ちました。これからは息子や孫の世代が活躍し、よりよいまちになると思います。

平成28年秋季企画展
『富士見還暦―三村合併から六十年―』

詳しい合併の経緯や、当時の生活の変化を伝える資料を展示します。

とき／9月30日㈮～平成29年1月9日㈷
場所／難波田城資料館特別展示室